



学校だより

<http://www.edu.city.yokohama.jp/sch/es/byobugaura/>

5 月 号
平成30年 4月27日
横浜市立屏風浦小学校
校長 海老原 眞

伸びる芽を育てよう

色とりどりのツツジが街に華やかさを添え、満開だった桜の枝には、今は柔らかい緑の若葉が生き生きと茂っています。

3年生国語の最初の詩は「わかば」です。

わかばを見ると おねが晴れ晴れする。
ぼくら子どもも ほんとは 人間のわかば。
天が、ほら。 あんなに晴れ晴れしている。
ぼくらを見まもって……………。



屏風浦小の若葉たちも、毎日晴れ晴れした笑顔で過ごしています。1年生の初めての給食準備はとても大変でしたが、地域のボランティアの方々にも助けられ、少しずつやり方を覚えて、お互いに教え合う姿も見られました。また、6年生は朝や中休み、給食の時間などに1年生の教室を訪れ、とても親切に声をかけている様子が見られました。中休みや昼休み、校庭から教室へと手をつなぎながら帰っていく姿は、なんとも微笑ましく感じます。思いがけない子が面倒見良かったり、根気強かったりと、幼い子どもたちと関わることで育まれる、優しさや粘り強さがあるのだなと改めて思います。4月は学校のいろいろな場面で、子どもたちの伸びていく芽を実感しました。

子どもたちにとって4月のスタートは、新しい自分との出会いでもあります。こんな自分になりたいとめあてを立てて、一生懸命取り組んでいます。新しい友達や先生との出会いが、今まで気づかなかった自分の一面を引き出してくれます。

その新しい自分が伸びる芽です。子どもたちは、皆、伸びる芽をもっています。しかし、その芽の成長はそれぞれに違います。急いで芽を出す子やゆっくりの子、ぐんぐん育つ子やじっくり少しずつ育つ子、どの子にもよさがあり、実りがあります。どの子も安心して成長できるように、そのよさを見つけ、励ましていくのが私たち大人の役割です。早く伸ばそうと無理やり引っ張れば、柔らかい新芽は簡単に折れてしまいます。それよりも、土の中に太いしっかりとした根を生やすことができれば、どの子も自信をもって歩いていけるはずです。私たち大人は地に足をつけ、晴れ晴れとした気持ちで、子どもたちの成長を見守っていきたいものです。

5月は、体験学習や遠足などの場面を通して、大きく伸びる機会があります。今月も子どもたちの伸びる芽がたくさん見られることを楽しみにしています。